

News Letter

発行

特定非営利活動法人子どもシェルターモモ

〒700-0838 岡山市北区京町11-8

電話086-206-2423 FAX086-237-0634



CONTENTS

- ・ 巻頭言…………… 1
- ・ 総会報告…………… 2～3
- ・ 「モモの家」通信…………… 4
- ・ 「あてんぼ」通信…………… 4～5
- ・ 「学南ホーム」通信…………… 5～6
- ・ 「アフターケア」通信…………… 6
- ・ 助成金・ご寄付…………… 7
- ・ 事務局より…………… 8

表紙絵の言葉 内村 暁

「瞼の裏の宇宙」

矢印並ぶ 林を抜けて
宇宙旅行に出発だ

気のいい電気羊と風見鶏が
近道を指さした　けれど

道案内はいらないの
じょうずに迷子になれたのなら
どこまでだって行けるでしょ

卷頭言



ご挨拶

「巻頭言」というこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

令和8年度4月より専務理事とし

て、モモの事務局にて活動させていただいております片山恵子です。改めて、モモの理念である「それぞれの子どもが、夢を持ち、自己決定して自立するために、子どもの希望する限り、対等なパートナーとして支え続ける」ということの意味を日々考える機会をいただいております。

皆様方には、子どもたちの自立を温かく応援していただき、心より感謝申し上げます。皆様からの日頃のご支援・ご協力のおかげで、子どもシェルターモモは、今日も子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を続けることができます。

また、このたびは、赤い羽根共同募金を通じて多くの皆様からご寄付を賜りました。心より御礼申し

NPO法人子どもシェルターモモ 副理事長 片山 恵子

上げます。お寄せいただいたご厚意は、子ども・若者たちが安心して相談できる体制作り等に活用させていただく予定です。皆様の温かいお気持ちが子どもたちの心に届くことを願っています。

モモの活動の中で、時に「生きていくことのつらさ」を様々な形で表現する、子ども・若者たちに出会います。それぞれの子ども・若者たちには、生きにくいと感じてしまう現実があります。そうした中で、ここ数年の間に、モモに関わる複数人の子ども・若者に悲しい出来事がありました。

子ども・若者の声は見えない形で表現されます。モモでは、苦しい現実には押し倒されそうになっている子ども・若者の声に耳を傾け、冒頭の理念にありますように、対等なパートナーとして、つながり支え続けることが必要と思っています。

引き続き、子ども・若者たちの心に寄り添った温かいご支援をいただけるよう、よろしく願いいたします。

2026年度通常総会開催



2026年度（令和8年度）の通常総会が6月14日（日）14時から岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館で開催されました。正

会員総数126名の内、出席者数82名（書面議決者67名）、賛助会員等で11名の参加がありました。今回初めて岡山市子ども総合相談所から矢内悟措置課長が参加され、活動への理解とお祝いの言葉を頂きました。

会場にはモモの理念と活動状況の分かるパネルや、2025年度に行ったボランティア養成講座参加者からの感想などが展示され、参加者の机の上には色とりどりの紫陽花が置かれ、温かく和やかな雰囲気作りがされていました。



2025年度は子どもの権利擁護を基本に置いて、子どもを真ん中にした多機関連携で、総合的な支援をしていく。また、子どもと職員、職員同士、理事と職員が互いの人権を尊重し合い、対等なパートナーとして関係を築いていくことを目標に掲げ活動してきました。

2025年度の新たな取り組みとして、理事と職員で研修チームをつくり、職員の意見を取り入れた研修計画づくりに着手したこと、また理事による財政検討チームをつくり、ホーム長会議や職員からのヒヤリングで出された要望を反映した待遇改善と健全な財政・運営について検討しました。2025年度12月に初めて職員へ賞与を支給することができました。

また、これまでの活動を振り返る機会にしたいと県内の自立援助ホームでは初めての第三者評価を受けました。モモの家はシェルターネットで定めた「子どもシェルター評価基準」、あてんぼ・学南ホー

ムは「自立援助ホームの評価基準」に沿っての評価でしたが、評価結果は3つのホーム共に子ども支援の内容、支援を支える研修については高い評価を受け、職員、理事共に励まされました。評価で指摘された中・長期計画の策定については2026年度の課題として掲げることにしました。また、アフターケア事業では「社会的養護自立支援拠点事業」を岡山市から委託されていますが、国が示した基準額を岡山市が組めないために年々増加している支援件数に対応する担当職員への負担が大きいため、岡山市へ引き続き働きかけが必要であることも報告されました。

2026年度の活動計画は2025年度の活動を引き続き行うことに若者の自死、自死未遂を防ぐために他機関連携による緊急対策を検討することが加わりました。

以上を井上理事長が報告し、参加者全員で承認しました。

2026年度は役員改選期にあたり、新たに中井俊雄さん（ノートルダム清心女子大学准教授）が選任されました。



モモ発足時から17年間理事として大きな力を発揮して下さった東隆司さん、市場恵子さん、白井和年さんが退任の意思を表明され、井上理事長より3人の方々に感謝を込めた花束の贈呈がありました。

議事終了後に、4つの事業責任者から2025年度に入居する子どもたちに安心と安全を保障した居心地の良い居場所を作ってきたこと、また子どもたちが自身で選択ができるようにチームで支援をしている報告がありました。共通していたのは、退居後も実家に帰るように訪ねてくるようになったこと、電話やメールで相談をしていることでした。中にはボランティア養成講座を受け、ボランティアスタッフとして関わりたいと言う子どもがいることも報告され、「してもら側」から「する側」に成長している様子が報告され、子どもたちの成長の姿も見えました。

（文責：西崎）

子どもシェルター モモの家

子どもシェルターでは、子どもの人権回復と権利保障を何より大切にし、一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいます。子どもの思いや意見を丁寧に聴きながら、職員や弁護士、関係機関と連携し、チームとして支援を行っています。今年度も職員それぞれが役割と責任を持ち、安心・安定した生活環境を整えるとともに、防災訓練や季節行事など日常を大切にした支援を継続します。また、研修参加や職員間での学びの共有を通じて専門性を高め、中四国エリアの子どもシェルターとも連携しながら、より充実した支援体制づくりを進めていきます。

自立援助ホーム 学南ホーム

今年度も、職員が一方的に環境を整えるのではなく、子どもたち自身が「居心地の良い場所」をつくっていけるよう支援しながら、子どもを中心に置いた施設運営を行います。ホームミーティングでは、職員への要望だけでなく子ども同士の意見交換も大切にし、安心して声を出せる環境づくりを進めていきます。また、今年度は「対話」を大切なキーワードとし、子ども一人ひとりと丁寧に向き合う時間を意識していきます。職員側が答えを急ぐのではなく、子ども自身が持つ思いや考えを引き出し、自分らしく歩んでいけるよう寄り添った支援を行っていきます。

2026年度 活動方針・計画

自立援助ホーム あてんぼ

入居する子どもたちが安心できる環境の中で自分自身と向き合い、自ら選択し決定できる力を育めるよう支援を行います。一人ひとりの状況や希望に応じて、自立支援計画に基づく就労支援、学習支援、生活支援を進めるとともに、医療や福祉機関とも連携しながら生活を支えていきます。また、誕生日や季節行事などを通じて温かな関係づくりを大切にし、退居後も孤立しないよう継続した関わりを行います。子どもたちの気づきや思いを職員間で共有し、日々の支援を振り返りながら、より良い支援につなげていきます。

アフターケア事業所 en

社会に出た後も「安心できる場所や信頼できる人がいる」と感じられるよう、若者一人ひとりの声やサインに丁寧に耳を傾けながら支援を行います。今年度も社会的養護自立支援拠点事業を継続し、居場所の提供をはじめ、就労支援、学習支援、法律相談、医療機関との連携、一時避難先の確保など幅広い支援に取り組みます。また、助成金も活用しながら、一人暮らし体験や日常を少し豊かにする企画など、若者が将来への希望を持ち続けられるよう伴走支援を行います。施設や里親、他機関とも連携し、切れ目のない支援体制づくりを進めていきます。

2025年度 利用者状況（モモの家・あてんぼ・学南ホーム）

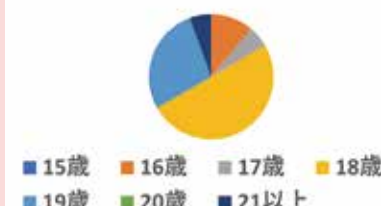
各月初日在籍児童数



入所時年齢



退所時年齢



※3施設合計

※3施設合計

「モモの家」通信

いろいろな事情があってモモの家にたどり着いた子どもたちに、「安心できる場所がある」と感じてもらい、「あなたは大切な存在なんだ」ということを伝えられる場所でありたいと思い、日々子どもたちと生活を共にしています。

子どもたちは、自分のことを一番に考えることができないほど、傷ついています。職員は「こんな大人もいるよ。」から始まり「頼ってもいい大人がいるのかも。」と子どもに思ってもらえるようになれたらよいのでは、と思っています。子どもと一緒に生活する中で、季節・人・心などで、温もりを少しでも感じてもらえればと思っています。そして、それが安心につながり、自分というものを見つける小さな手掛かりの助けになってほしいと思っています。

さて、モモの家は今春から夏に向けて、植物たちが開花を始めています。近所の沈丁花の花の香りが終わるころ、みかんの白い花が香り豊かな夏の知らせを持ってきています。そしてプランターでは子ども



ジャガイモの花

もが「芽が出てから植えてみよう！」と植えたジャガイモが薄紫の小さな花を咲かせています。そして昨年冬に子どもと一緒に植えたブ

ランターの花たちは終わりを告げています。

「何か植えようよ。」
「苗を買いに行きたい。」という子どもの声を聴き、夏の花の苗を一緒に買い、寄せ植えを3鉢作りました。花の色の組み合わせを考えるのも楽しいひと時です。これは少し夏



みかんの花とナミアゲハ

の日差しを感じる5月の穏やかな日の出来事です。

また、ある日「ダンゴムシ飼ってもいいですか？」という子どもの一声でジャムの空き瓶2つがダンゴムシ飼育箱になったこともありました。「かわいい。」と言い、瓶からダンゴムシを紙箱に入れ、ダンゴムシの観察をする日が何日も続いたこともあります。そうかと思えば、アニメの推しキャラの趣味が苔テラリウムということで、これまた空き瓶に苔を敷地内から探しだし、瓶の中で育成していたこともあります。日々いろいろな小さなことがあります。子どもたちの明るい顔を見た時、職員も一緒になって笑い会話する、そんなひと時に穏やかな時間の流れを感じるモモの家です。 (文責：N.Y.)

「あてんぼ」通信

昨年度は入所者の入れ替わりが激しく、退所してはすぐに入所があるため、退所者の人数も開所して以来50名を超えました。現在は、4名の入所者があてんぼでの生活を送っており、日々学校にバイト、趣味、推し活、とみんな忙しい毎日を送っています。

最近のトピックといえば、去年に引き続き今年もいちご狩りに行きました。去年は入所者として参加した退所者が声をかけてくれ、一緒に参加してくれました。今回はサウスヴィレッジへ行き、4種類のいちごを、時間余すことなく食べつくしました。去年



いちご狩り

は71個という記録を叩き出した子も、今年はいちご1つ1つが大きかったこともあり、新記録更新にはならず、今年の最高記録は53個という結果に終わりました。幸い天気にも恵まれ、春のお出かけ日和となり、目まぐるしい日常からはかけ離れた、非日常的な時間を過ごすことができました。

入職して数年が経ち、私も何人かの退所者を見送ってきましたが、退所しても「ただいまー」と帰ってきてくれる子たちに、たくさんパワーをもらっています。困りごとや相談だけでなく、嬉しい報告をしてくれたり、仕事で頑張っていることを教えてくれたり、県外で生活している子に食料や日用品を送るついでに手紙を添えると、手紙をコレクションにしていると言ってくれたり…と、そのたび

に嬉しい気持ちになります。

ある退所者は、一人暮らしを始めてから自分で作ったご飯の写真を送ってきてくれ、「いつか作ってあげるから食べてな!」と言っていたことを思い出しました。あてんぼ来所時には、みんなの分まで美味しそうなハンバーグを作ってくれました。ソースまで手作りのこだわりハンバーグで、想像を遥かに超える美味しさだったことを覚えています。

今入所している子たちもいずれは退所していくことになりますが、“自立”とは一人で何でもできるようになることではなくて、誰かに頼ることができるようになることだと考えます。あてんぼを退所する時には、頼れる応援団が1人でも多く増えていることを願っています。

(文責：西) 美味しそうなハンバーグ



自立援助ホーム

「学南ホーム」通信

梅の実もできて、段々と季節の変化を感じるようになっていきます。我が学南ホームでも進級や卒業など新年度を迎えました。現在6名の子どもがおり、1人はステップハウスで一人暮らしの練習をしており、それぞれ就労、学校などの充実した日々を過ごしています。9月に高校の卒業を控えている子、現在フリーターで就職活動を行っている子がおり、羽ばたいていくサポートをしっかりとできればよいと考えております。学校生活やアルバイトをこなしていく中で、少しずつ自分のできる事を増やしていけるように勉強をしています。最近料理を覚えようと努力している



料理の時間

子とは、昼食に親子丼を作ったりしています。そのような中で、新しい料理の作り方を職員に聞いてくる子もいます。料理を作った際は「一口味見をして欲しい」と食べさせてくれます（これが結構美味しくて、びっくりさせられます）。

ホームではBBQを行なったりと、普段とは違う特別な日を設けています。そのような時は、彼らの日常では見ることができない意外な一面に遭遇することがあり、この仕事の楽しさを感じております。このようなイベント事は今後も継続し、ホームの職員だけではなく、様々な大人と関わる場面も増やすことができればと考えております。



ホームの庭でBBQ

私がホームで働くようになって、もうすぐ3年が経ち4年目を迎えようとしています。その中で送り出した子どもがホームに遊びに来ることがあります。彼らが当時よりも逞しく成長している姿を見ると安心するし、ここは何かあった時に頼れる居場所として機能しているのだと感じます。またOBから「今なら職員が言う言葉が分かる」という事を言ってもらえるのを嬉しく思います。そのように送り出して

く子どもたちが学南ホームのことをいつでも帰ってきて近況を報告、相談をできる場所と思ってもらえるように、今いる子どもたちとは今以上に日々の対話を大切にしていきたいと思いました。何気ない会話や一緒に何かをすることは、彼らにとって大切な時間であり、その大切な時間をこれからも共有していきたいと思っています。

(文責：南埜)

アフターケア

「アフターケア事業所en」通信

アフターケア事業所enは、令和8年2月1日に岡町に引っ越しました。岡町の建物は、これまでお弁当のお渡しや、しえある一むの利用時に来てもらう場所でしたが、2月以降すべてのアフターケアの活動拠点となりました。



保育園みたいな日

今まで京町に来てくれていた若者たちも、少し遠くなった人や近くなった人もいて、感想は様々なのですが、毎週巻きずしやお弁当を

お渡しする日、ボードゲームの日などには、部屋からにぎやかな声が聞こえています。

また、ここは花いっぱい運動の町なので、引っ越したら早々に、町内会の方がモリモリに咲いたパンジーのプランターを一つ置いていただきました。毎朝の水やりや花がら摘みも楽しい日課となっています。次の配布は5月の日曜日だ



モリモリの花たち

そうで「適当に置いといたげらー」と言って下さり、地域の人の温かさにも触れています。

さて、昨年度enでは新しい取り組みとして、ひと

り暮らし応援の部屋やシェルター機能のある部屋を用意しました。皆さんには有効に使っていただいています。

また、24時間テレビチャリティ委員会と、アフターケア事業所の全国ネットワークえんじゅのコラボ企画による、寄付を活用させていただきました。それにより他団体の施設のこどもや若者、職員の方々ともつながったり、しえある一む利用の人たちに、いつもより少しワクワクするようなものを持ち帰ってもらえる企画も立てました。ケアリーパーを招いてのシンポジウムや、リスタート（再就職）応援など活動自体盛りだくさんな一年でした。

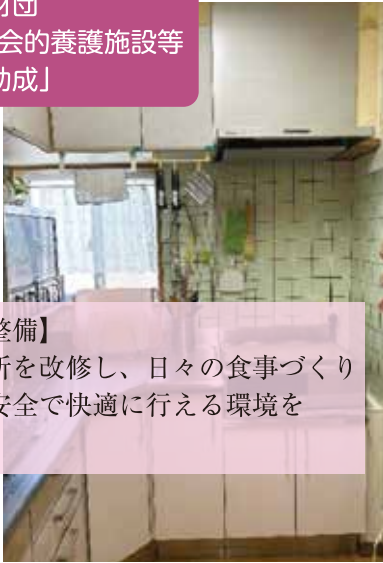
今年も岡山市から「社会的養護自立支援拠点事業」の業務委託をされたので、また新たな気持ちでアフターケア事業に取り組みたいと思っています。また、助成金の利用についても、今年も大いに利用したいと考えていますが、増え続ける利用者数に対して、どのように一人ひとりと丁寧に向き合い、問題にどう取り組んでいくのか、という課題との間にジレンマも生じます。そこはこれまで通りスタッフ全員で四苦八苦しながら、無理なく楽しくやっていきたいと思っています。(文責：易)



アラスカ豆を植えてみた

助成金を活用した取り組み

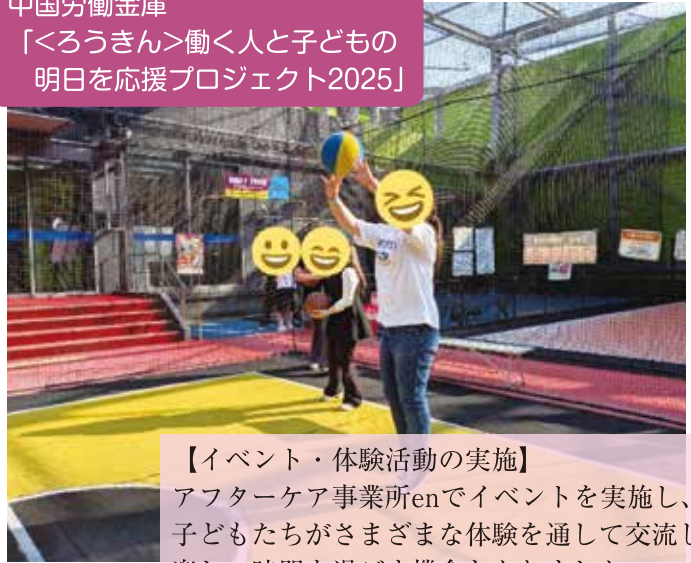
篠原欣子記念財団
「2025年度社会的養護施設等
設備・備品助成」



【施設設備の整備】

あてんぼの台所を改修し、日々の食事づくりや生活がより安全で快適に行える環境を整備しました。

中国労働金庫
「<ろうきん>働く人と子どもの
明日を応援プロジェクト2025」



【イベント・体験活動の実施】

アフターケア事業所enでイベントを実施し、子どもたちがさまざまな体験を通して交流し、楽しい時間を過ごす機会となりました。

※誌面の都合上、一部の取り組みをご紹介します。

今後も助成金を有効に活用しながら、若者の安心した暮らしや自立を支える取り組みを進めてまいります。各種助成団体の皆さまの温かいご支援により、子ども・若者の暮らしや自立を支えるさまざまな取り組みを実施することができました。心より感謝申し上げます。

ご寄付を頂いた方々（敬称略）

2026年1月 - 6月

一般社団法人若草プロジェクト 岡山北西ロータリークラブ 岡山ライオンズクラブ
邑久光明園入所者自治会 国際ソロプチミスト岡山 コストコホールセールジャパン株式会社
社会福祉法人岡山市社会福祉協議会 特定非営利活動法人ジャパンハーベスト
黒瀬真由美 高坂和子 友次貴経 南野育成園 匿名希望19名

～令和8年赤い羽根共同募金「地域ささえあいプロジェクト」～

青野雅世 板野次郎 邑久光明園入所者自治会 小川孝雄 小倉秀一 音田貢 片山文
片山麻悠 金原勝美 鴨井倫子 草野詔子 来住由樹 国本操 黒瀬真由美 古賀隆治
国際ソロプチミスト岡山桃 小林利江 佐原政数 嶋村稔 十場政子 妹尾美智子
高崎和美 竹内保子 綱嶋桂三 特定非営利法人保育サポート「あい・あい」
永井律子 成瀬京子 西崎史 西本享子 延原栄子 林忠治 百本恵子 福田弘子
藤原健補 藤原尚 益田佐和子 松本美穂子 水落卓司 光信篤子 森永昇 安原尚蔵
安原早苗 矢野千重子 山崎正之 山部美加子 山本賢昌 吉原達之 渡邊満
他 匿名希望 25名 理事 7名

ご寄付いただきました皆様に心より感謝申し上げます。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

事務局だより

赤い羽根共同募金会 ～「地域から孤立をなくそう」 ささえあいプロジェクト～

たくさんの皆様にご協力をいただき、**1,110,000円**の助成をいただけることになりました。
今回のご寄付は、子ども・若者が安心して相談できる体制作りと、子どもへの支援力の向上のために活用いたします。

ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました！！

令和7年度の助成を受けて新しいホームページが完成しました。
ぜひご覧ください!! <https://shelter-momo.org/>



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加しています！



毎月11日にイオンモール岡山に設置されている専用の投函BOXへ黄色いレシートを入れると、レシートの合計額の1%が子どもシェルターモモに寄付され、2025年度は**74,300円**のご寄付をいただきました。

店頭に立ち、モモのことを知っていただく活動も行っています。

毎月11日にイオンモール岡山でお買い物の際はぜひレシートの投函をお願いいたします！

Amazonほしい物リストでいただきました！

全国各地の方々から下記写真のように沢山のご寄付をいただいております。
いただいた物品は、各ホームやアフターケアの子どもたちの為に有効活用をさせていただきます。

Amazon
欲しいもの
リストはこちら



ほしい物リストは定期的に更新しておりますので、引き続きご支援いただけますと幸いです。
ご寄付くださいました皆様、本当にありがとうございました！

- ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へ
ご送金いただければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835

特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付で
ある旨をご記入いただけますと幸いです)

- クラウドファンディングによる
寄付も受付中



編集後記

2026年度通常総会では、事業計画などを井上理事長が報告しました。困難を抱える子どもたちのセーフティネットとして重要な役割を担っていることをあらためて認識しました。今回は理事の交代がありました。創設時から尽力いただいた東（前理事長）、市場、白井の3氏が退任。活動の推進だけでなく心の支えでもありました。ありがとうございました。新たに中井氏が理事に加わります。(文責・江草)

この広報誌は(株)ベネシードの支援を受けて作成しています。